

# 平尾

2月号



## 春はとなりに

大寒が過ぎ、今月の三日は節分で四日が立春です。節分は季節の分かれ目という意味で、立春・立夏・立秋・立冬の前日が節分で、かつては年四回ありました。「節分は二月三日だけ」と思っている方も多いのではないのでしょうか。私もそうです。鬼も年四回はきつかったでしょうね。

立春ということばの響きは、今の寒い冷たいから少しづつ暖かい春に向かっていくんだなー、そのうちホッコリした何かが見つかったらいいなーという思いにさせてくれます。雪が雨に変わり、氷が解けて水が流れ、里山の草木の芽や種が見えないところで春を迎える準備を始めています。春はもうとなりまで来ています。

平尾荘の周辺でも、フキノトウやツクシが顔を見せてくれます。近くに梅園もあり、春を感じる楽しみがたくさんあります。厳しい冬はあとわずか、皆さんのとなりにとも温もりの春が控えていますよ。気がかりなのは、猿の不法慰問がこのところずーっとないことです。

春隣り やぶれ障子の 陽射しかな

荘長 白井 勝

## 初詣(財賀寺)

一月二十四日(火)、初詣に出かけました。行き先は財賀寺です。この財賀寺、読み方が確定されていませんので、「ざいかじ」「ざいがじ」「さいがじ」でも構わないようですが、書道の場合を除いて「ざいかじ」で一応統一しているようです。仁王門に安置されている木造金剛力士立像は平安時代後期の作で、国の重要文化財に指定されています。しかも、東大寺南大門の金剛力士立像に次いで、日本で二番目に大きいといわれています。



金剛力士は、阿形の像高三八センチ、吽形の像高三七センチの巨像です。天衣は腕に巻きつけ、腰に太い縄状の帯を締めています。腰をひねらず、上体を内側に開き「く」の字形を示しています。筋肉質の穏やかなひきしまった上体に対して、腰からは幅広く安定感があります。鼻を中心に、まゆ・目・鼻・口が集まったユーモラスな明るい顔立ちと、太くて短い首は古い様式です。材はヒノキが用いられ、像は前後左右の四つの材を継ぎ合わせ、これに別材を継ぎ足す手法が用いられています。また、夜になるとライトアップをすることが出来ます。

寒い日でしたが、散策して良い運動になりました。



## 平尾市民館まつり

1月15日(日)平尾市民館まつりのカラオケ大会に3組の方が参加してきました。この日のために練習してきた甲斐あって、素晴らしい歌声でした。

上: 今中さんと梅内さん(麦畑パート2)  
右下: 鈴木嘉博さん(憧れのハワイ航路)  
左下: 三宅忠さん(北の漁場)



## ボーイスカウト慰問

1月15日(日)ボーイスカウト慰問がありました。組体操や歌を披露していただき楽しい時間を過ごす事ができました。ありがとうございました。



## たいこ相撲 結果

今年から優勝トロフィー登場です。次回は3月場所です。お楽しみに。



## 恵方巻き

29年の恵方は「北北西」です。平尾荘で考えると、ふれあいセンターの方向です。ご利益がありますように...



## お知らせ

2月は誕生者がいないので、誕生日会はありません  
2月 3日(金) 節分  
2月22日(水) 口腔ケア講習会  
2月23日(木) いちご狩り



## 編集後記

二〇一七年が始まったかと思えば、もう一か月が経ちました。寒い冬が終わるのももうすぐです。インフルエンザ・ノロウイルスに気を付け、寒い冬を乗り越えましょう。